

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年（文系）
使用教科書	桐原書店『論理国語』				
副教材等	浜島書店『常用国語便覧』、尚文出版『常用漢字ダブルクリア』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	〈知〉のコミュニティへ	4 「A 読むこと」	村田沙耶香「気持ちよさという罪」	筆者の思いを理解し、それを生徒自身が自分にも通ずることとして考え、他者と関わる中で生かすことを考える。	6	ワークシート（記述の確認）定期考査（内容分析）発表の様子（行動の確認）
5	評論Ⅰ ① 要旨の把握 ② 解釈の進化	2 「A 読むこと」	鷲田清一「いのちは誰のものか」	筆者の考えを正確に理解し、自分の体験などをもとに、解釈を深める。	3	ワークシート（記述の確認）定期考査（内容分析）発表の様子（行動の確認）
5	中間考査				1	
5 ・ 6	評論Ⅱ ① 要旨の把握 ② 多様な観点 「書く」一問いを生む	4 「A 読むこと」 7 「B 書くこと」	大庭 健「動物の信号と人間の言語」 宇野常寛「世界の見え方を変える」	言語の特質を的確に把握する。動物の信号と人間の言語の違いを、比較対照して具体的に検証する。 「書く」ことを起点にして「説く」ことを鍛え、それを「書く」ことに還元していくことを目指す。	6 7	ノート（記述の点検） ワークシート（記述の確認）定期考査（内容分析） 課題提出（記述の点検）意見文（記述の確認）
	評論Ⅲ ① 論拠の検討 ② 多様な観点	4 「A 読むこと」	藤原新也「イスラム感覚」	日本人の規範についての筆者の考えを根拠に、本文を解釈し、自分の考えを深める。	4	ノート（記述の確認）定期考査（内容分析）
6	期末考査				1	
7 ・ 8	評論Ⅳ（Ⅰ） ① 根拠の用意 ② 論拠の吟味	9「B 書くこと」	岡田暁生「芸術も科学も『閉世界』を見せる」	最先端の科学技術についてのニュースを新聞やインターネットを用いて収集し、興味を持った内容をレポートにまとめる。	9	レポート（記述の点検）発表の様子（行動の確認）定期考査（内容分析）

9	評論Ⅳ（２） ① 論拠の検討 ② 情報との関連	2「A読むこと」	黒崎政男「ロボットは心を持つか」	「ロボットに心はない！」という筆者の考えや、「そもそも心とは何か」で述べられている筆者の考えを参考にして、心とは何か、ということを考える。	4	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
	境界をこえて	2「A読むこと」	松村圭一郎「器としての『わたしたち』」	集団と集団の境界について考える。「わたし」の存在について考える。「家族」のあり方を学ぶ。他者とのつながりについて考える。	4	レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10・11	論文を読む	8「A読むこと」	宮原浩二郎「変身に伴う快楽と恐れ」	段落構成をまとめる。変身の本質を考える。変身の恐怖を考える。変身についての筆者の考えをまとめる。	8	ノート（記述の確認） レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
	実用的な文章	2「B書くこと」	通信文を書く	各自が作成した通信文を比較し、相手に考えや必要な情報が伝わっているかについて意見交換したうえで、自らの文章を見直す。	2	発表の様子（行動の確認） 通信文（記述の分析）
	評論Ⅴ ① 要旨の把握 ② 多様な観点	4「A読むこと」	山極寿一「暴力はどこからきたか」	内容を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。文章の解釈を現実のニュースと結びつけ、新たな観点から自分の考えを深める。	8	ノート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12・1・2	実用的な文章	2「B書くこと」	観光地紹介を書く	伝えたい内容やターゲットに沿って紹介文の構成を考え、盛り込む情報の取捨選択をする。	2	発表の確認（行動の確認） 紹介文（記述の分析）
	評論Ⅴ ① 要旨の把握 ② 多様な観点	8「A読むこと」	丸山真男「であることとすること」	自分が将来就きたい職業や研究をしたい学問分野を挙げ、そこに見られる「である」価値と「する」価値の関係性や倒錯について考えたうえで、発表する。	10	ノート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	論文を読む	10「A読むこと」	山崎正和「淋しい人間」	時代背景を読み解く。「家」の本質をつかむ。「自由」について考える。「淋しさ」の本質をつかむ。	10	ノート（記述の確認） レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
2	学年末考査				1	
2・3	実社会との接点	8「B書くこと」	三宅陽一郎「キャラクターの身体、自動車の身体」	本文の内容を踏まえて、自動運転車が実現した社会を想像し、その利点と課題を八百字程度にまとめる。	8	ノート（記述の確認） 課題提出（記述の分析）

計 96 時間（55 分授業）

領域ごとの 授業時数合計	A読むこと 63 時間	B書くこと 28 時間
-----------------	----------------	----------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現代の変わりゆく社会を生きていくには他者との協働が不可欠です。それには他者の主張や考えを的確に理解し、さらに自らの主張や考えも相手に正確に伝える必要があります。論理的に書いたり批判的に読むことで言葉を使う能力を向上させましょう。

（担当：柳澤）

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（理系）
使用教科書	桐原書店『論理国語』				
副教材等	浜島書店『常用国語便覧』、尚文出版『常用漢字ダブルクリア』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	〈知〉のコミュニティへ	4 「A 読むこと」	村田沙耶香「気持ちよさという罪」	筆者の思いを理解し、それを生徒自身が自分にも通ずることとして考え、他者と関わる中で生かすことを考える。	5	ワークシート（記述の確認）定期考査（内容分析）発表の様子（行動の確認）
5	評論Ⅰ ① 要旨の把握 ② 解釈の進化	2 「A 読むこと」	鷲田清一「いのちは誰のものか」	筆者の考えを正確に理解し、自分の体験などをもとに、解釈を深める。	2	ワークシート（記述の確認）定期考査（内容分析）発表の様子（行動の確認）
5	中間考査				1	
5 ・ 6	評論Ⅱ ① 要旨の把握 ② 多様な観点 「書く」一問 いを生む	4 「A 読むこと」 3 「B 書くこと」	大庭 健「動物の信号と人間の言語」 宇野常寛「世界の見え方を変える」	言語の特質を的確に把握する。動物の信号と人間の言語の違いを、比較対照して具体的に検証する。 「書く」ことを起点にして「説く」ことを鍛え、それを「書く」ことに還元していくことを目指す。	5 3	ワークシート（記述の確認）定期考査（内容分析） 課題提出（記述の点検）意見文（記述の確認）
	評論Ⅲ ① 論拠の検討 ② 多様な観点	4 「A 読むこと」	藤原新也「イスラム感覚」	日本人の規範についての筆者の考えを根拠に、本文を解釈し、自分の考えを深める。	4	ワークシート（記述の確認）定期考査（内容分析）
6	期末考査				1	
7 ・ 8	評論Ⅳ（Ⅰ） ① 根拠の用意 ② 論拠の吟味	4「B 書くこと」	岡田暁生「芸術も科学も『別世界』を見せる」	最先端の科学技術についてのニュースを新聞やインターネットを用いて収集し、興味を持った内容をレポートにまとめる。	4	レポート（記述の点検）定期考査（内容分析）
9	評論Ⅳ（Ⅱ） ① 論拠の検討 ② 情報との関連	2「A 読むこと」	黒崎政男「ロボットは心を持つか」	「ロボットに心はない！」という筆者の考えや、「そもそも心とは何か」で述べられている筆者の考えを参考にして、心とは何か、ということを考える。	3	定期考査（内容分析）発表の様子（行動の確認）

	境界をこえて	2「A読むこと」	松村圭一郎「器としての『わたしたち』」	集団と集団の境界について考える。「わたし」の存在について考える。「家族」のあり方を学ぶ。他者とのつながりについて考える。	3	レポート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10・11	論文を読む	6「A読むこと」	宮原浩二郎「変身に伴う快楽と恐れ」	段落構成をまとめる。変身の本質を考える。変身の恐怖を考える。変身についての筆者の考えをまとめる。	6	レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
	実用的な文章	2「B書くこと」	通信文を書く	各自が作成した通信文を比較し、相手に考えや必要な情報が伝わっているかについて意見交換したうえで、自らの文章を見直す。	2	発表の様子（行動の確認） 通信文（記述の分析）
	評論Ⅴ ① 要旨の把握 ② 多様な観点	3「A読むこと」	山極寿一「暴力はどこからきたか」	内容の的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。文章の解釈を現実のニュースと結びつけ、新たな観点から自分の考えを深める。	6	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12・1	実用的な文章	2「B書くこと」	観光地紹介を書く	伝えたい内容やターゲットに沿って紹介文の構成を考え、盛り込む情報の取捨選択をする。	2	発表の確認（行動の確認） 紹介文（記述の分析）
2	評論Ⅴ ① 要旨の把握 ② 多様な観点	4「A読むこと」	丸山真男「であることとすること」	自分が将来就きたい職業や研究をしたい学問分野を挙げ、そこに見られる「である」価値と「する」価値の関係性や倒錯について考えたうえで、発表する。	6	ワークシートノート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
	論文を読む	2「A読むこと」	山崎正和「淋しい人間」	時代背景を読み解く。「家」の本質をつかむ。「自由」について考える。「淋しさ」の本質をつかむ。	2	レポート（記述の点検）
2	学年末考査				1	
2・3	実社会との接点	6「B書くこと」	三宅陽一郎「キャラクターの身体、自動車の身体」	本文の内容を踏まえて、自動運転車が実現した社会を想像し、その利点と課題を八百字程度にまとめる。	6	課題提出（記述の分析）

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A読むこと 42 時間	B書くこと 17 時間
-----------------	----------------	----------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現代の変わりゆく社会を生きていくには他者との協働が不可欠です。それには他者の主張や考えを的確に理解し、さらに自らの主張や考えも相手に正確に伝える必要があります。論理的に書いたり批判的に読むことで言葉を使う能力を向上させましょう。

(担当：柳澤)

教科(科目)	国語（古典探究）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年（文系）
使用教科書	桐原書店『探求 古典探究古文編』『探求 古典探究漢文編』				
副教材等	数研出版『体系古典文法』、尚文出版『精選漢文』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。 ② 古典などの理解を深める中で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・単語テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	説話 用言の復習 説話の概要理解	5 「A 読むこと」	『宇治拾遺物語』 「歌詠みて罪を許さること」	大隅守が郡司を許すために歌を詠ませことの意味について考え、歌の持つ力および歌徳説話について考える。	5	ノート（記述の点検） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	故事・寓話 疑問形・反語形などの表現に注意した内容理解。	4 「A 読むこと」	『春秋左氏伝』 「病入膏肓」	正しく訓読し、登場人物を整理する。語句や句形を確認し、全体の内容を理解する。故事成語の意味を確認する。	4	ノート（記述の点検） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	中間考査				1	
5 ・ 6	物語 文学史の理解 読み比べ	7 「A 読むこと」	『大和物語』 「嫉捨」	歌物語を理解する。登場人物の心理・性格を理解しながら、ストーリーを理解する。物語の内容を踏まえたうえで、その後の展開を考える。『俊賴朝臣』『更級日記』との比較で深める。	7	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	日記 語の識別 現代との比較	5 「A 読むこと」	『更級日記』 「門出」	平安時代の日記文学の概要を知る。全文を把握し、作者の物語への思いを理解する。現代における日記と、どのような点で違いがあるか、考える。	5	ノート（記述の点検） 課題提出（記述の確認）
	文章 重要句形と構文 理想的な社会について考える	5 「A 読むこと」	『陶淵明集』「桃花源記」	桃源郷がどのような理由で作られていったのかを理解する。この作品の構成と陶潜の創作意図について考える。	5	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
6	期末考査				1	

7 ・ 8	随筆 敬語の学習 文学史の理解	5 「A 読む こと」	『枕草子』 「中納言参り給 ひて」	会話部分が誰の言葉であるかを確認する。隆家と作 者の会話から、二人の人物関係について理解する。敬 語の種類と敬意の方向について確認する。末尾の記 述に表れている作者の心情を読み取る。	9	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	歴史 敬語の学習 文学史の理解	4 「A 読む こと」	『大鏡』「道長と 伊周の競射」	歴史物語について、概要を理解する。戯曲的な構成を とることで読者が歴史的世界に引き込まれるように 描かれており、「紀伝体」をとることで人物像が浮き 彫りにされていることを理解する。	4	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	8 「A 読む こと」	『史記』 「沛公、項王に見 ゆ」	修辭法として重要な比喩表現がどのような仕掛けに よって、いかなる効果を上げているのかを理解する。 漢文訓読の技術の習得と文構造への理解、脚注の力 を借りながら、大きなストーリーはもとより、表現の 細かにニュアンスまで読み味わうようにする。	8	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10 ・ 11	物語 敬語の学習 文学史の理解	7 「A 読む こと」	『源氏物語』 「光源氏の誕生」	『源氏物語』の文学史上の位置を、既習の作品と比較 して理解する。『源氏物語』の中で冒頭部分の持つ意 味を理解する。敬語に留意して理解を深める。	9	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	3 「A 読む こと」	『史記』 「四面楚歌」	音読を繰り返し、正しく訓読する。「四面楚歌」の具 体的な内容を把握する。項王の詩を読み、詩句に込め られた項王の思いを想像する。	5	ノート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
	物語 敬語の学習 和歌の理解	8 「A 読む こと」	『源氏物語』 「若紫との出会 い」	後に紫上と呼ばれ、物語の中心的立場を占める人物 の登場場面を確実に捉える。語句・語法・敬語に関す る知識を深め、文章を正しく理解する。	8	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	和歌 修辞 韻文作品の理解	6 「A 読む こと」	和歌 春秋 恋 離 別・旅・哀傷	当時の季節の捉え方、恋愛の形態や恋への思い、今日 とは異なる旅への思いなど、現在の生活と結びつけ ながら、古典和歌の世界をレポートにまとめる。	6	レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
	思想 重要句形と構文 儒家の思想学習	8 「A 読む こと」	『論語』	孔子や『論語』について、また諸子百家における孔子 の位置について確認する。孔子が弟子の特徴を見抜 いて君子について語る内容をそれぞれ変えていたこ とを理解し、今に生きる英知を捉える。	8	ノート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	軍記 文学史の理解 敬語の学習 読み比べ	8 「A 読む こと」	『平家物語』 「宇治川の先陣」 小林秀雄 「平家物語」	軍記物語に特有の表現上の特徴に注意して、東国武 士がどのように描かれているかを的確に捉える。 小林秀雄独特の「平家物語」観への理解を深める。筆 者の視点を踏まえて「宇治川の先陣」を音読すること で、「古典」としての「平家物語」の価値を実感する。	8	ノート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
2	学年末考査				1	

2 ・ 3	日本漢文 ・ 日本漢文の生気に あふれた表現を味 わう。	8 「A 読む こと」	頼山陽 「川中島の戦い」	「川中島の戦い」とはどのようなものであったかを 理解する。範読の後に斉読し、何度も音読を繰り返 す。合戦の展開と人や物の動きに注目して、緊迫感を 醸成している理由を理解する。	8	ノート（記述の確認） 課題提出（記述の分析）
-------------	--	-------------------	-----------------	--	---	---------------------------

計 96 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「読むこと」 91 時間
-----------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

私たちの国の文化や伝統と強く結びつき、教養として積み重ねられた古典の価値を再認識し、古典に親しみながら
自己のものの見方、感じ方、考え方を深め、向上させましょう。先人の知識に目を向けて見ませんか。私たちの未
来はその先に広がっています。

(担当：柳澤)

教科(科目)	国語（古典探究）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（理系）
使用教科書	桐原書店『探求 古典探究古文編』『探求 古典探究漢文編』				
副教材等	数研出版『体系古典文法』、尚文出版『精選漢文』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。 ② 古典などの理解を深める中で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝える力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・単語テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	説話 用言の復習 説話の概要理解	4 「A 読む こと」	『宇治拾遺物語』 「歌詠みて罪を 許さるること」	大隅守が郡司を許すために歌を詠ませことの意味について考え、歌の持つ力および歌徳説話について考える。	4	ワークシート（記述の点検） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	故事・寓話 疑問形・反語形などの表現に注意した内容理解	3 「A 読む こと」	『春秋左氏伝』 「病入膏肓」	正しく訓読し、登場人物を整理する。語句や句形を確認し、全体の内容を理解する。故事成語の意味を確認する。	3	ワークシート（記述の点検） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	中間考査				1	
5 ・ 6	物語 文学史の理解 読み比べ	4 「A 読む こと」	『大和物語』 「嫉捨」	歌物語を理解する。登場人物の心理・性格を理解しながら、ストーリーを理解する。物語の内容を踏まえたうえで、その後の展開を考える。『俊賴朝聞』『更級日記』との比較で深める。	4	ワークシート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	日記 語の識別 現代との比較	4 「A 読む こと」	『更級日記』 「門出」	平安時代の日記文学の概要を知る。全文を把握し、作者の物語への思いを理解する。現代における日記と、どのような点で違いがあるか、考える。	4	ワークシート（記述の点検） 課題提出（記述の確認）
	文章 重要句形と構文 理想的な社会について考える	4 「A 読む こと」	『陶淵明集』「桃花源記」	桃源郷がどのような理由で作られていったのかを理解する。この作品の構成と陶潜の創作意図について考える。	4	ワークシート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）

6	期末考査				1	
7 ・ 8	随筆 敬語の学習 文学史の理解	4 「A 読む こと」	『枕草子』 「中納言参り給 ひて」	会話部分が誰の言葉であるかを確認する。隆家と作 者の会話から、二人の人物関係について理解する。敬 語の種類と敬意の方向について確認する。末尾の記 述に表れている作者の心情を読み取る。	4	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	歴史 敬語の学習 文学史の理解	3 「A 読む こと」	『大鏡』「道長と 伊周の競射」	歴史物語について、概要を理解する。戯曲的な構成を とることで読者が歴史的世界に引き込まれるように 描かれており、「紀伝体」をとることで人物像が浮き 彫りにされていることを理解する。	3	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	3 「A 読む こと」	『史記』 「沛公、項王に見 ゆ」	修辭法として重要な比喩表現がどのような仕掛けに よって、いかなる効果を上げているのかを理解する。 漢文訓読の技術の習得と文構造への理解、脚注の力 を借りながら、大きなストーリーはもとより、表現の 細かいニュアンスまで読み味わうようにする。	3	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10 ・ 11	物語 敬語の学習 文学史の理解	6 「A 読む こと」	『源氏物語』 「光源氏の誕生」	『源氏物語』の文学史上の位置を、既習の作品と比較 して理解する。『源氏物語』の中で冒頭部分の持つ意 味を理解する。敬語に留意して理解を深める。	6	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	2 「A 読む こと」	『史記』 「四面楚歌」	音読を繰り返し、正しく訓読する。「四面楚歌」の具 体的な内容を把握する。項王の詩を読み、詩句に込め られた項王の思いを想像する。	2	ワークシート（記述の点 検） 定期考査（内容分析）
	物語 敬語の学習 和歌の理解	6 「A 読む こと」	『源氏物語』 「若紫との出会 い」	後に紫上と呼ばれ、物語の中心的立場を占める人物 の登場場面を確実に捉える。語句・語法・敬語に関す る知識を深め、文章を正しく理解する。	6	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	和歌 修辭 韻文作品の理解	3 「A 読む こと」	和歌 春秋 恋 離 別・旅・哀傷	当時の季節の捉え方、恋愛の形態や恋への思い、今日 とは異なる旅への思いなど、現在の生活と結びつけ ながら、古典和歌の世界をレポートにまとめる。	3	レポート（記述の確認）
	思想 重要句形と構文 儒家の思想学習	3 「A 読む こと」	『論語』	孔子や『論語』について、また諸子百家における孔子 の位置について確認する。孔子が弟子の特徴を見抜 いて君子について語る内容をそれぞれ変えていたこ とを理解し、今に生きる英知を捉える。	3	ワークシート（記述の確 認） 定期考査（内容分析）
	軍記 文学史の理解 敬語の学習 読み比べ	4 「A 読む こと」	『平家物語』 「宇治川の先陣」 小林秀雄 「平家物語」	軍記物語に特有の表現上の特徴に注意して、東国武 士がどのように描かれているかを的確に捉える。 小林秀雄独特の「平家物語」観への理解を深める。筆 者の視点を踏まえて「宇治川の先陣」を音読すること で、「古典」としての「平家物語」の価値を実感する。	4	ワークシート（記述の確 認） 定期考査（内容分析）
2	学年末考査				1	
2 ・ 3	日本漢文 日本漢文の生気に あふれた表現を味 わう。	6 「A 読む こと」	頼山陽 「川中島の戦い」	「川中島の戦い」とはどのようなものであったかを 理解する。範読の後に斉読し、何度も音読を繰り返 す。合戦の展開と人や物の動きに注目して、緊迫感を 醸成している理由を理解する。	6	発表の様子（行動の確認） 課題提出（記述の分析）

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「読むこと」 59 時間
-----------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

私たちの国の文化や伝統と強く結びつき、教養として積み重ねられた古典の価値を再認識し、古典に親しみながら自己のものの見方、感じ方、考え方を深め、向上させましょう。先人の知識に目を向けて見ませんか。私たちの未来はその先に広がっています。

(担当：柳澤)

教科(科目)	地理歴史（地理探究）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年文系
使用教科書	帝国書院『新詳地理探究』				
副教材等	とうほう『新編 地理資料2024』 帝国書院『新詳地理探究演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ① 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ② 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
- ③ 進路実現に向けて、大学進学に対応できる知識・技能・思考力・読解力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識>世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解している。 <技能>「地理総合」で習得した地理的な技能を、「地理探究」で学ぶ内容に即して、さらに実践的な技能を身に付けている。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力や、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養うことができる。	地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト、定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 ・発言や発表の内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・活動の様子の観察 ・ワークシートの確認 ・発言や発表の様子の観察 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	1 地形	5	地形の成因 大地形 小地形	・地形に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・地形に関わる諸事象について、場所の特徴や自然的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
5	2 気候	5	気候の成り立ち 気候と生態系 世界の気候区分 気候変動と異常気象	・気候に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・気候に関わる諸事象について、場所の特徴や自然的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査
6	3 農林水産業	7	農業の発達と分布 農業の地域区分 林業 水産業	・農林水産業に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・農林水産業に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・農林水産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
7	4 エネルギー・ 鉱産資源 5 工業	7	エネルギー資源の種類と利用 化石燃料の分布と利用 電力の利用 鉱山資源の種類と利用 工業の発達と種類 工業の立地 世界の工業地域 現代世界の工業の現状と課題 工業の知識産業化	・資源・エネルギーに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・資源・エネルギーに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・資源・エネルギーについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 ・工業に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート

8 9	6 交通・通信	4	世界を結ぶ交通 情報通信の発達	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・交通・通信について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
	7 観光		余暇の拡大と観光産業	・観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。		
	8 人口		世界の人口 人口の移動	・人口に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。		
	9 人口問題		世界の人口問題 日本の人口問題	・人口に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・人口について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。		
10.	10 村落と都市 11 都市・居住問題	14	村落の形態と機能 都市の成立と形態・機能 都市圏の拡大と都市の構造 発展途上国の都市・居住問題 先進国の都市・居住問題	・都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
	12 衣食住		世界の衣服と食生活	・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。		
	13 民族・宗教と民族問題		世界の住居と衣食住の画一化	・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。		
	14 国家の領域と領土問題		世界の民族・言語 世界の宗教 さまざまな民族問題	・生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。		

11	15 中国 16 韓国 17 ASEAN 諸国 18 インド 19 西アジアと中央アジア 20 北アフリカとサハラ以南アフリカ	16	中国の工業化と海外進出 韓国の歴史と生活文化 ASEAN 諸国の工業とその発展 急速な経済成長を支えた産業の発展 イスラームと人々の生活文化 歴史的な背景によって形成された多様な文化	・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ・現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
12	21 EU 諸国 22 ロシア 23 アメリカ合衆国 24 ラテンアメリカ 25 オーストラリアとニュージーランド	6	EU の成り立ちと結びつき 体制変化が産業にもたらした影響と課題 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 ヨーロッパの影響が強い社会 移民の歴史と多文化社会	・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ・現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査
1	26 将来の国土の在り方	16	日本の強みと地理的な課題 課題の把握 課題の追究 課題の解決	・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
2 3	27 持続可能な日本の国土像の探究	16	日本の強みと地理的な課題 課題の把握 課題の追究 課題の解決	・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート発表

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに定期考査・課題考査・小テストを行う。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出（別途指示）。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

現代世界の系統地理的考察では世界の諸事象の規則性、傾向性を理解します。現代世界の地誌的考察では、世界の諸地域の構造や変容などを理解します。また、現代世界におけるこれからの日本の国土像では、現代日本に求められる国土像の在り方について構想します。地理情報システム（GIS）で2枚の地図を重ね合わせて地理的事象の分布の傾向性や規則性を理解したり、地域間の相互関連性などを理解したりしながら地理的な見方・考え方を習得します。そして、地理的な見方・考え方を活用し、地域の課題を考察し課題解決に向け構想します。地理では世界の構造を捉えていくことを心掛けましょう。世界の構造を把握すると未知の地理的事象（行ったことのない知らない土地で行われていること）を類推することが可能になります。世界という空間の構成を捉え、グローバルに活躍できる力を身につけることを目指します。

教科(科目)	地理歴史（日本史探究）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年文系
使用教科書	山川出版『詳説日本史』				
副教材等	浜島書店『新詳日本史』 浜島書店『ゼミナール日本史』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ① 日本の歴史の展開について、時間軸の中での連続性や、地域と日本、世界の空間的な認識、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷など様々な側面から、日本の歴史を大きく捉えることができるようにする。
- ② 多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握するとともに、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
- ③ 日本の歴史事象について、自分の考えを論理的に説明・論述したり、考察・構想したことを議論する力を涵養する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉我が国の歴史の展開に関する諸事について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 〈技能〉諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それら	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。

	を基に議論したりする力を身に付けている。	
--	----------------------	--

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査・小テストの分析 ・資料の読み取りをととしての表現の観察 ・レポートやワークシート、感想文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、感想文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、感想文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	1 日本文化のあけぼの	5	文化の始まり 農耕社会の成立	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを中心に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成及び原始社会の特色を理解する。 ・原始古代の特色を示す適切な歴史資料を使い、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ・歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
5	2 古墳とヤマト政権	5	古墳文化の展開 飛鳥の朝廷	・国家の形成と古墳文化を中心に、律令国家成立以前の政治・社会・文化を理解する。 ・中国大陆・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合・古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義・関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 ト
6	3 律令国家の形成	7	律令国家への道 平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容	・律令体制の成立過程と諸文化の形成などを中心に、古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動

7	4 貴族政治の展開	7	貴族政治 国風文化 地方政治の展開と武士	・貴族政治の展開・文化・地方支配の変化や武の出現などを中心に、律令体制の再編と変容及び古代の社会と文化の変容を理解する。 ・地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義及び関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート
8 9	5 院政と武士の躍進	4	院政の始まり 院政と平氏政権	・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の展開を理解する。 ・歴史資料の特性を踏まえ、資料を通じて読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
10	6 武家政権の成立	14	鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル来襲と幕府の衰退 鎌倉文化	・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを中心に、武家政権の伸張及び社会や文化の特色を理解する。 ・公武関係の変化や宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
11	7 武家社会の成長	16	室町幕府の成立 幕府の衰退と民衆の台頭 室町文化 戦国大名の登場	・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを中心に、地方権力の成長、社会の変容及び文化の特色を理解する。 ・社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動

12	8 近世の幕開け	6	織豊政権 桃山文化	・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解する。 ・近世の特色を示す適切な歴史資料を中心に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査
1	9 幕藩体制の成立と展開	16	幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 元禄文化	・法や制度による支配秩序の形成と身分制及び貿易の統制と対外関係などを基に、幕藩体制の確立の特色を理解する。 ・支配秩序の形成と身分制・技術の向上と開発の進展、産業の発達、学問・文化の発展を中心に、近世の社会・文化の特色を理解する。 ・交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
2 3	10 幕藩体制の動揺	16	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	・飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを中心に、幕藩体制の変容や近世の庶民の生活と文化の特色及び近代化の基盤の形成を理解する。 ・社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化の関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート発表

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・小单元ごとに小テストを実施する。
- ・大单元ごとに定期考査を実施する。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出する。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

日本史は教科書が厚く、学ぶべき事項が多岐に渡る。ある程度の歴史事項の暗記を避けて通ることはできないが、歴史の流れを理解するとともに、過去の出来事が現在とも関連していることを理解し、世界の中における日本の存在を認識して欲しい。

教科(科目)	公民（公共）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版『詳述公共』				
副教材等	浜島書店『最新図説 公共』、東京法令出版『ニューコンパスノート公共』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、構想したことを議論する力を養う。 (3) 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民権を担う公民としての自覚などを深める。

3 指導の重点

進学・就職に関わらず公民として必要な力を養うため ①基本的な用語や概念、理論についての理解を目指します。 諸資料から選択・判断に必要な情報を調べまとめる技能を身に付けることを目指します。 ②学んだ概念や理論を活用して自分の考えを確立し、その上で他者と議論して、より深く考察してそれを的確に表現する力を育みます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト、定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 ・発言や発表の内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・活動の様子の観察 ・ワークシートの確認 ・発言や発表の様子の観察 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1 社会を作る私たち	青年期と自己形成の課題 職業生活と社会参加 現代社会と現代の生き方	・ワークシートで自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について考える。	4	ワークシート 小テスト 発表の様子
5	2 人間としてよく生きる	ギリシアの思想、宗教の教え 人間の尊重 自由と尊厳 個人と社会	・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。	7	ワークシート 小テスト 発表の様子
6	3 社会とは何か	人間の尊厳と平等 自由・権利と責任・義務	・思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	2	ワークシート 小テスト 発表の様子
	4 民主国家における基本原理	人権保障の発展と民主政治の成立 国民主権と民主政治の発展	・公共的な空間における基本的原理について考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	3	準拠ノート 定期考査 発表の様子
7	5 日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の成立 平和主義とわが国の安全 基本的人権の保障 人権の広がり	・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて協働して考察したことを、論拠をもって表現する。	8	準拠ノート 小テスト 発表の様子
8 9	6 日本の政治機構と政治参加	政治機構と国民生活 人権保障と裁判所 地方自治 選挙と政党 政治参加と世論	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめる技能を身に付ける。	8	ワークシート 定期考査 発表の様子

10	7 現代の経済社会	経済社会の形成と変容 市場のしくみ 現代の企業 経済成長と景気変動 金融の働き 財政の役割	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、活発な経済活動と個人の尊重について考察する。	8	準拠ノート 小テスト 発表の様子
11	8 経済活動のあり方と国民福祉	日本経済の歩み 中小企業と農業 公害防止と環境保全 消費者問題 労働問題と雇用 社会保障	・多様な契約及び消費者の権利と責任、雇用と労働問題、社会会保障の充実などに関わる課題を基に、活発な経済活動と個人の尊重について考察する。	8	ワークシート 定期考査 発表の様子
12	9 国際政治の動向と課題	国家安全保障と国際連合 冷戦終結後の国際政治 異なる人種・民族との共存 国際平和と日本	・国家主権、領土、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割など諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめる。	6	ワークシート 小テスト 発表の様子
1 2	10 国際経済の動向と課題	国際経済のしくみ 国際経済体制の変化 経済のグローバル化と金融危機	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の課題を基に具体的な主題を設定し、その主題解決を論拠をもって表現する。	6	ワークシート 小テスト 発表の様子
3	11 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		・個人を起点として、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究する。	4	ワークシート 発表の様子

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに定期考査・課題考査・小テストを行う。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出（別途指示）。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

現代社会を構成する一員として、地域社会や世界の人々と共生する上で必要な考え方を身につけて、互いに尊重し合う社会をつくる力を養う授業です。現代社会で起こっている事柄やそのしくみ、先人たちの思想などの題材を広く把握し、それについて自分なりの考えを持ち、他者の意見を聞き、よりよい社会やよりよく生きる人間のあり方をさらに深く思考し、それを表現することが求められます。古代ギリシアの哲学者アリストテレスは「人間は社会的動物である」といいます。人は一人では生きていません。「共に生きる」ためのしくみ、規則、考え方などを自分ごととして考えましょう。
(担当：高橋陽子)

教科(科目)	数学（数学Ⅱ）	単位数	4単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	新編 数学Ⅱ（数研出版）				
副教材等	3TRIAL 数学Ⅱ＋B（数研出版）、NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ＋B（東京書籍）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

- （1）数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。
- （2）事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。
- （3）数学の良さを認識するとともに、それらを積極的に活用し、事象を数学的論拠に基づいて判断できる。

3 指導の重点

式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分法と積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数式化したり、数式的に解釈したり、数式的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数式的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	式と証明	第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式	18	課題考査
5		第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明		中間考査
6	複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	15	期末考査
7		第2節 高次方程式 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式		
8	図形と方程式	第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係	29	課題考査
9		第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円		中間考査
10		第3節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域		
11	三角関数	第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数とグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式、不等式	21	期末考査
12		第2節 加法定理 6 加法定理 7 加法定理の応用		

1	指数関数と対数関数	第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数 第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	19	課題 期末 考査
	微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積 ※文系と理系は同等の内容を扱うが、理系においては発展的な内容を追加する。	26	

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

平日 授業の時に解けなかった問題を解き、次にその日に学習した授業範囲の 3 T R I A L 問題を解く。
週末 週末課題で指定された LEGEND の問題を解く。さらに、その週に学習した内容の 3 T R I A L で大切なところや解けなかったところをもう一度（2回目）解いてみる。
数学は復習が最も重要である。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要である。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことはわからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当：齋藤 貴嗣)

教科(科目)	数学（数学B）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	新編 数学B（数研出版）				
副教材等	3TRIAL 数学Ⅱ＋B（数研出版）、NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ＋B（東京書籍）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

- （1）数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。
- （2）事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。
- （3）数学の良さを認識するとともに、それらを積極的に活用し、事象を数学的論拠に基づいて判断できる。

3 指導の重点

数列及び統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	- 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	- 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	数列	第1節 等差数列と等比数列	18	課題考査
		1 数列と一般項		
		2 等差数列		
5		3 等差数列の和		中間考査
		4 等比数列 5 等比数列の和		
6		第2節 いろいろな数列	10	期末考査
		6 和の記号 Σ 7 階差数列		
7		8 いろいろな数列な和		
		第3節 漸化式と数学的帰納法	4	課題考査
8	統計的な推測	9 漸化式 10 数学的帰納法		
9		第1節 確率分布	18	
		1 確率変数と確率分布		中間考査
10		2 確率変数の期待値と分散		
		3 確率変数の和と積		期末考査
11		4 二項分布		
12		5 正規分布		
		第2節 統計的な推測	14	課題考査
1		6 母集団と標本		
		7 標本平均の分布		期末考査
2		8 推定		
3		9 仮説検定		

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

平日 授業の時に解けなかった問題を解き、次にその日に学習した授業範囲の 3 T R I A L 問題を解く。
週末 週末課題で指定された LEGEND の問題を解く。さらに、その週に学習した内容の 3 T R I A L で大切なところや解けなかったところをもう一度(2回目)解いてみる。
数学は復習が最も重要である。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要である。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことはわからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当：齋藤 貴嗣)

教科(科目)	理科(物理)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年(理系)
使用教科書	数研出版『物理』				
副教材等	数研出版『リードLight ノート物理』 河合出版『物理のエッセンス 力学・波動』 『物理のエッセンス 熱・電磁気・原子』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

(1) 法則や公式を理解もせず丸暗記するのではなく、導出過程および意味を重視する。

(2) 実験や観察などを通して、物理現象の具体的・体験的理解の場をつくる。

(3) 物事を筋道立てて、論理的に思考する力を伸ばしていく。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	・物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	・物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	[平面内の運動] 1. 平面運動の速度・加速度	教科書 副教材	速度や加速度のベクトルを用いた扱いを十分に理解させ、慣れさせる。	4	定期考査 小テスト 提出物
5	2. 落体の運動		放物運動における速度ベクトルを水平成分と鉛直成分とに分解し、定量的に理解させる。	8	
6	[剛体] 1. 剛体にはたらく力のつりあい	教科書 副教材	剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きの他に作用線の位置により決まることを理解させる。	4	定期考査 小テスト 提出物
	2. 剛体にはたらく力の合力と重心		剛体にはたらく力の合力をさまざまな場合に応じて求められるようにする。また、重心の位置を求め、剛体の傾く条件と転倒する条件を理解させる。	4	
7	[運動量の保存] 1. 運動量と力積	教科書 副教材	運動の法則から力積と運動量の関係を導く。	4	定期考査 小テスト 提出物
	2. 運動量保存則		保存則から物体の衝突や分裂などの現象を扱う方法を理解する。	6	
8	3. 反発係数		反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解させる。	6	
9	[円運動と万有引力] 1. 等速円運動	教科書 副教材	等速円運動における量の定義、およびこれらの中に成り立つ関係を学習させる。	4	定期考査 小テスト 提出物
10	2. 慣性力		遠心力は慣性力の一種であることを例題で具体的に把握させる。	4	
	3. 単振動		等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解させる。	4	
	4. 万有引力		ケプラーの法則と運動方程式とから万有引力の公式が得られることを理解させる	6	
11	[気体のエネルギー] 1. 気体の法則	教科書 副教材	ボイル・シャルルの法則から、理想気体の状態方程式が得られることを示す。	3	定期考査 小テスト 提出物
	2. 気体分子の運動		気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く。	5	
	3. 気体の状態変化		熱力学第一法則の式を用いて、定積変化、定圧変化、等温変化、断熱変化を理解させる。	4	

12	[波の伝わり方] 1. 波と媒質の運動 2. 正弦波の式 3. 波の伝わり方	教科書 副教材	波を表す要素（振幅, 周期, 振動数, 波長そして波の伝わる速さ）について確認させる。 原点での単振動の式をもとにして正弦波の一般式を正しくつくれるようにする。 波面の進み方はホイヘンスの原理によって説明されることを理解する。	3 3 2	定期考査 小テスト 提出物
1	[音の伝わり方] 1. 音の伝わり方 2. 音のドップラー効果	教科書 副教材	音波は波としての諸性質を持つことを理解する。 波源と観測者とが相対的に運動しているときには、観測者が受ける振動数は波源本来の振動数とは異なることを理解する。	4 6	定期考査 小テスト 提出物
2	[光] 1. 光の性質 2. レンズと鏡	教科書 副教材	光は波としての諸性質を持つことを理解する。 レンズがつくる像を図および実験を通して理解させる。また、写像公式との関係を理解させる。	4 4	定期考査 小テスト 提出物
3	3. 光の干渉と回折		光学距離の差に注目するし、明線、暗線の式から隣りあう明線（暗線）の間隔を求めることができる。	4	

計96時間（55分授業）

7 課題・提出物等

- ・授業は適宜、長期休業中は課題テストを前提とした課題を課す。
- ・考査毎に副教材のリード Light ノート物理の提出を、実験にはレポートの提出を義務づける。

8 担当者からの一言

物理は自然現象に潜む法則を発見し、それを未知の現象の解明に適用していく学問です。17世紀のニュートン以降、物理学は自然への探求活動とともに実験を通して発展し、その成果は科学技術の革新をもたらしました。高校では既に発見された法則をもとにして、力学や電磁気学など、分野ごとに体系づけられた理論について学習していきます。先人たちの知恵を学び、新たな視野を広げていきましょう。

教科(科目)	理科(生物)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年(理系)
使用教科書	数研出版 『生物』				
副教材等	数研出版『改訂版リードLight ノート生物』、第一学習社 『新課程二訂版スクエア最新図説生物』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 指導の重点

① 進化の視点を持ち、生命現象についての深い理解を目指します。 ② 生命現象を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能の習熟を目指します。 ③ 上記2つを的確に表現できることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通し、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解している。また観察、実験等に関する基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、論理的に考え、分析的、総合的に考察し、科学的に判断することができる。またその結果を的確に表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究する態度を身につけようとしている。また生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につけようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通し、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解している。また観察、実験等に関する基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、論理的に考え、分析的、総合的に考察し、科学的に判断することができる。またその結果を的確に表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究する態度を身につけようとしている。また生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につけようとしている。
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	領域	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点	評価方法
4 ・ 5	第1章 生物の進化	1. 生命の起源と生物の進化 生物の多様性と共通性、原始地球と有機物の生成、有機物から生物へ、生物の出現とその発展、真核生物の出現と進化	生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。	6	a	提出物 (記述の点検)
		2. 遺伝子の変化と多様性 遺伝子と形質、ゲノムの多様性	生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。	3	b c	提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
5	中間考査			1	a, b	
5 ・ 6		3. 遺伝子の組み合わせの変化 減数分裂と受精、染色体と遺伝子、遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂の過程では、染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。	6	a b c	提出物 (記述の点検) 提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		4. 進化のしくみ 進化と突然変異、集団としての進化、実際の生物集団と進化、種分化	遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。	7		
		5. 生物の系統と進化 生物の分類、生物の系統と系統樹、生物の系統と分類	DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。	4		
6	期末考査			1	a, b	

7 ・ 8 ・ 9		6. 人類の系統と進化 人類の祖先, 人類の進化	人類が, 霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として, 直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。	4	a	提出物 (記述の点検)
	第2章 細胞と分子	1. 生体物質と細胞 細胞を構成する物質, 原核細胞と真核細胞の構造, 真核細胞の構造と機能, 生体膜の構造	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。	5	b	提出物 (記述の確認)

		2. タンパク質の構造と性質 タンパク質とは, タンパク質の構造, タンパク質の立体構造と機能	細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	3	C	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		3. 化学反応にかかわるタンパク質 酵素の基本的な性質と, 酵素のはたらき, 酵素のはたらきと反応条件, 酵素反応の調節	酵素の基本的な性質と, 酵素のはたらきについて理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。	5		
9	中間考査			1	a, b	
10 ・ 11		4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 膜輸送にかかわるタンパク質, 情報伝達にかかわるタンパク質	生体膜を介した物質輸送と, それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。	4	a	提出物 (記述の点検)
					b	提出物 (記述の確認)
	第3章 代謝	1. 代謝とエネルギー 生物とエネルギー, 生体内の化学反応	生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり, 反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。	3	c	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		2. 呼吸と発酵 呼吸とは, 呼吸の過程, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解	呼吸では, 有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され, ATP が合成されることを理解する。発酵では, 酸素を用いずに有機物が分解され, ATP が合成されることを理解する。	6		
		3. 光合成 光合成とは, 光合成のしくみ, 細菌の光合成	光合成では, 光エネルギーを用いて ATP と電子の運搬体が合成され, これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。	5		
11	期末考査			1	a, b	

12 ・ 1 ・ 2	第4章 遺伝情報の発現と発生	1. DNAの構造と複製 DNAの構造, DNAの複製	DNAについて, 2本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。 DNAが正確に複製される詳しいしくみを理解する。	4	a	提出物 (記述の点検)
		2. 遺伝情報の発現 遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳, 真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違い	DNAの遺伝情報を写し取って, RNAが合成されるしくみを理解する。転写されたRNAから, タンパク質が合成されるしくみを理解する。	5	b	提出物 (記述の確認)
		3. 遺伝子の発現調節 遺伝子の発現調節, 原核生物の発現調節, 真核生物の発現調節	遺伝子の発現が, 環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において, それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。	5	c	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		4. 発生と遺伝子発現 発生と遺伝子発現, 動物の配偶子形成と受精, カエルの発生, カエルの発生と遺伝子発現, ショウジョウバエの発生と遺伝子発現	発生の過程で, 遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は, 細胞内の物質のはたらきや, 他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。	8		
2	学年末考查			1	a, b	
2 ・ 3		5. 遺伝子を扱う技術 遺伝子を導入する技術, 遺伝情報を解析する技術, 遺伝子発現を解析する技術, 遺伝子を扱う技術と人間生活	遺伝子を扱うさまざまな技術について, その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が, 私たちの生活に与える影響を理解する。	8		

計 96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考查ごとにリードLightノートの取り組みを点検します。
- ・タブレットに配信した課題への取り組みを点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

生物には重要用語がたくさん出てきます。用語の暗記はもちろん必要ですが、その内容を自分で説明できることが重要です。また、生命現象は必ず時間とともに変化するものなので、教科書に出てくる図を、時間を追って説明できる力も必要となってきます。さらに数学や化学の知識が必要な内容もあり、幅広い知識を使って考えていくこととなります。

生命現象は観察や実験によって解明されてきました。実験結果の丸暗記ではなく、どのようにして解明されてきたかを考えながら学習していくとさらに深く理解できると思います。

(担当：小林朋子)

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

- 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識と技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わう。
- 2 運動について自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決にむけて思考判断する。
- 3 生涯にわたって継続して運動に親しみ、明るく活力のある生活を営む資質や能力を養う。

3 指導の重点

- ・各領域において、運動の特性に触れさせ、その楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ・健康や安全についての理解を深め、内容や環境に応じて、適切に取り組むことができるようにする。
- ・周囲に配慮し、仲間と協力しながら取り組むことができるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	- 学習活動への取り組みの状況 - 提出課題の記述内容 - スキルテストやゲームにおける動き	- 学習活動への取り組みの状況 - 提出課題の記述内容 - グループ活動での発言や指示の内容 - 活動における練習の工夫やゲームにおける動き	- 学習活動への参加状況 - 学習活動への取り組みの状況 - 振り返りシート

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	体づくり運動	12	集団行動 体づくり	- 集合、整列、列の増減、挨拶 - 学校体操 - 体ほぐしの運動 - 体力を高める運動	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
5						
6	陸上競技(男女)	18	長距離走 障害走	- 男子 3000m - 女子 1500m - 男子 100mH - 女子 80mH	abc	タイム計測 授業の様子 (行動の確認)
7	投てき			円盤投げ		
	体育理論	6	体育理論	○スポーツにおける技術と戦術・戦略 ○スポーツにおける技能と体力 ○技能の上達過程と練習の考え方 ○効果的な動きのメカニズム ○体力トレーニング ○運動やスポーツでの危険予知と安全確保	abc	確認テスト 授業の様子 (行動の確認)

8 9	器械運動 (男子)	15	マット運動 跳び箱運動	○マット運動 ・前転、後転 ・側転 ・ロンダート ・ハnadスプリング ○跳び箱運動 ・開脚跳び ・台上前転 ・前方倒立回転跳び	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (女子)	8	サッカー	○個人的技術 ・基本的なボールの扱い方 ・ドリブル、パス ・トラップング ・シュート ○集団的技術 ・チャレンジアンドカバー ・クロスからのシュート ・ワンツーパスからのシュート ・ボールを持っている人に 選択肢を与える。(増やす) ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		7	ソフトボール	○個人的技術 ・オーバースロー ・サイドスロー ・キャッチボール ・バッティング ○集団的技術 ・シートノック・送球練習 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	器械運動 (女子)	15	マット運動 跳び箱運動	○マット運動 ・前転、後転 ・側転 ・ロンダート ・倒立前転 ○跳び箱運動 ・開脚跳び ・台上前転	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

11	球技 (男子)	8	サッカー	○個人的技術 ・基本的なボールの扱い方 ・ドリブル、パス ・トラップイング ・シュート ○集団的技術 ・チャレンジアンドカバー ・クロスからのシュート ・ワンツーパスからのシュート ・ボールを持っている人に 選択肢を与える。(増やす) ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		7	卓球	○個人的技術 ・フォアハンドストローク ・シェークハンド ・ツッツキ ・カットサーブ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
12	球技 (男子)	8	バレーボール	○個人的技術 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・ブロック ・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		7	バドミントン	○個人的技術 ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

3	球技 (女子)	15	バレーボ ール	○個人的技術 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・ブロック ・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (男子)	15	バスケット ボール	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (女子)	8	バスケット ボール	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		7	バドミ ン トン	○個人的技術 ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム		

計96時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

振り返りシート

7 担当者からの一言

- ① 「できない」だけではなく、「できるように励むこと」が評価に大きく関わるため、授業については積極的に活動すること。
- ② 授業はチャイムと同時に開始するので、着替えや活動場所への移動は休み時間内に完了しておくこと。
- ③ 体育の授業は出席してしっかり参加することを前提とする。体調不良の場合や怪我で参加できない場合は、担当者に相談し判断する。見学の際は見学届けの記入をすること。

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

保健の見方、考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質、能力を育てる。

3 指導の重点

- ・健康と日常生活行動が密接に関連していることを理解させる。
- ・現代社会においては、心の健康を保持増進することが重要であることを理解させる。また、そのために身に付けておくべき知識や方法等について理解させる。
- ・交通安全には個人、環境、車両などの要因が関連していること及び車両を運転するにあたって要求される資質や責任等について理解させる。
- ・日常的な応急手当ての方法、心肺蘇生法及びAEDの活用法について理解させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康的な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	・学習活動への参加状況 ・学習活動への取り組みの状況 ・筆答試験・提出課題等 などから、評価します。	・学習活動への参加状況 ・学習活動への取り組みの状況 ・筆答試験・提出課題等 などから、評価します。	・学習活動への取り組みの状況 ・提出課題等 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4 5 6 7	1. 生涯を通じる健康	10	新高等保健体育	1 思春期と健康 2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康 7 高齢社会対応した取り組み 8 働くことと健康 ・個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解する。 ・課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断し、それらを他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)
	1 学期末考査					

8 9 10 11 12	2. 健康を支える 環境づくり 2 学期末考査	13	新高等保 健体育	9 労働災害の防止 10 働く人の健康作り 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対 策 4 環境衛生に関わる活動 5 食品の安全性と健康 6 食品の安全性を確保する取り 組み 7 保健制度とその活用 ・個人及び社会生活における健康・ 安全について総合的に理解する。 ・課題を発見し、その解決を目指し て総合的に思考し判断し、それら を他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)
1 2 3	学年末考査	9	新高等保 健体育	8 医療制度とその活動 9 医療品の制度とその活用 10 様々な保健活動や対策 11 誰もが健康に過ごせる社会に向 けた環境づくり ・個人及び社会生活における健康・ 安全について総合的に理解し技 能を身に付けている。 ・課題を発見し、その解決を目指し て総合的に思考し判断し、それら を他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)

計 32 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

保健ノート・授業プリント

8 担当者からの一言

- ① 教科書や副教材を中心に各単元とも知識・理解に重点を置き授業を進めるが、実践力・課題解決能力を身につけるため、実習・課題解決学習等も行う場合がある。
- ② ノートをとる際は、ただ板書事項を写すだけでなく、気付いたことや考えたこと、他の人や先生の発言の中から大切なことを記入するなどの工夫をする。
- ③ 疑問をそのままにしてしまうことは、健康にとってとても危険である。進んで質問したり、積極的に調べたりして、解決する努力する。

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅡ)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	PANORAMA English Communication II (大修館)				
副教材等	同教科書 Workbook、同教科書 予習復習ノート、Focus on Listening Pre-Standard (エミル出版)、DataBase3300 (桐原書店)、Reading Forward-Blue (エミル出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (2) 日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (3) 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えを話し合ったり論理性に注意して伝え合うことができる。 (4) 日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。
--

3 指導の重点

①確かな学力のために、予習→授業→復習を徹底し、平日は学年＋1時間、休日は学年＋2時間を目指します。 ②たくましく生き抜くための力を身につけるために、与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服することを目指します。 ③英語は協働作業の機会が多い。ペアの相手、グループのメンバーのおかげで協働学習が成り立つ。活動の中で色々な意見や考えに触れて視野を広げることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

聞く、読む、話す[やり取り・発表]、書くために必要となる語彙や表現を理解している。日常的な話題や社会的な話題についての説明を読み取ったり、情報や考えを理由とともに伝えたりする技能を身につけている。	日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、相手や状況に応じて伝えている。世界の問題を説明するために、諸問題の書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えている。	日常的な話題や社会的な話題についての意見や考えを、習得したことを基に活用して多様な表現で伝えようとしている。社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、概要や要点を捉えようとしている。
--	--	---

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・教科書に準拠した初見文の内容の確認 ・レポートやワークシート、などの内容の確認 ・作品制作の表現の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	L1 自分の行きたい国とその理由についてやり取りする	Lesson 1 World Panoramas	世界の国や地域には、すばらしい風景や文化があることについて理解を深め、それぞれの持つ現代の課題について考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認）
5	L2 日本の文化について調べたことを発表する	Lesson 2 The World of Tea	様々な国のお茶の文化について理解を深め、日本固有の文化や習慣について考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
6	L3 目的に合った商品を選ぶために広告の内容を読み取る	Lesson 3 Sleep	睡眠について理解を深め、よい睡眠をとるにはどうすべきかについて考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
7	L4 科学に関するニュースを聞いて情報を整理する	Lesson 4 Biomimetics	バイオミメティクスについて理解を深め、自然や生物から人間が何を学べるかについて考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
8・9	L5 ディベートの準備として自分の意見を論理的に書く	Lesson 5 Table for Two	物語の流れを追いながら、2人の登場人物の心情や話の展開を想像する。	16	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認） ・意見文（記述の確認）
10	L6 社会的な話題についての新聞記事を読んで情報を整理する	Lesson 6 Yusra Mardini	ユスラさんの体験やメッセージについての理解を深め、難民問題について考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
11	L7 ソーシャルメディアの良い点・悪い点を事例とともに書く	Lesson 7 Social Media and Communication	SNS が人間のコミュニケーションや英語に及ぼす影響について理解を深め、SNS の課題や利点について考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認） ・意見文（記述の確認）

12	L8 未来のロボットについてプレゼンテーションをする	Lesson 8 People and Robots	人間とロボットの関係について理解を深め、両者の関係のあり方について考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
1	L9 ディスカッションを聞いて主な論点を整理する	Lesson 9 All about Zoos	動物園の歴史について理解を深め、人間と動物との関係や動物保護についてについて考える	10	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
2 ・ 3	L10 相手の発言内容（環境保全）に基づき話し合いを深める Supplementary Reading	Lesson 10 No One Is Too Small to Make a Difference	環境保護を訴えるグレッタさんの主張について理解を深め、自分たちに今何ができるかについて考える。	18	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）

計128時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎週明けの単語テストの範囲、長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

2年次は、予習→授業→復習のサイクル、平日は学年＋1時間、休日は学年＋2時間の家庭学習の習慣をつけてください。与えられた課題をただやるだけでなく、自分にそのとき必要なことを必要なだけ身につける時間の確保、やり方の模索、定着するまでの反復、といったすべてを自律して自分に課してください。自分で考えて自分で学習する生徒になってほしいと思います。「英語」は単なる語学ではなく、自分を表現し、自分の世界を広げるための手段です。科目を通して、見聞を深めて視野が広がることを望みます。

(担当：長津、藤田)

教科(科目)	外国語（論理・表現Ⅱ）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	be English Logic and Expression II Clear (いゐずな書店)				
副教材等	同教科書 Grammar Book、同教科書 Workbook、 be 総合英語 4th Edition (いゐずな書店)、英語の構文 (美誠社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用し、情報や考えを話し合ったり、やりとりを通して必要な情報を得たりすることができる。 (2) 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

3 指導の重点

①確かな学力のために、予習→授業→復習を徹底し、平日は学年+1時間、休日は学年+2時間を目指します。 ②たくましく生き抜くための力を身につけるために、与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服することを目指します。 ③英語は協働作業の機会が多く、ペアの相手、グループのメンバーのおかげで協働学習が成り立ちます。活動の中で色々な意見や考えに触れて視野を広げることを目指します。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、インタビュー、ネゴシエーションといった表現活動は社会に出てからも役立つスキルです。上達するには慣れることです。まずはやってみましょう。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

話す[やり取り・発表]、または書くために必要となる語彙や表現を理解し、目的や場面、状況に応じて理由とともに伝えたりする技能を身につけている。	目的や場面、状況に応じて、情報や考えを理由とともに適切な表現で伝えている。世界の問題を説明するために、諸問題の書かれた説明文を読んで、概要や自分の意見を伝えたり、書いたりしている。	目的や場面、状況に応じて、習得したことを基に活用しようとしている。さまざまな話題について聞いたり読んだりしたことを基に、相手に理解してもらえるように伝えようとしている。
--	--	--

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・作品制作の表現の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・ポートフォリオの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	Lesson 1	Your Interests	- 趣味やクラブ活動に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 趣味やクラブ活動について話したり、文章を書いたりする。 - 動詞の時制について学んで理解する。 - 時や状況に応じて動詞の時制を正しく使う。	4	- ワークシート(記述の確認) - 課題提出(記述の点検) - 発表の様子(行動の確認)
5 ・ 6	Lesson 2	Your Daily Life	- 日常生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 日常生活について話したり、文章を書いたりする。 - 不定詞(名詞用法)・動名詞・名詞節について学んで理解する。 - 伝えたいことに応じて、不定詞・動名詞・名詞節を正しく使う。	4	- ワークシート(記述の確認) - 発表の様子(行動の確認)
	Lesson 3	Your School Life	- 学校生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 学校生活について話したり、文章を書いたりする。 - 助動詞について学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて、助動詞を正しく使う。	4	- ワークシート(記述の確認) - 発表の様子(行動の確認)
7	Lesson 4	Media Literacy	- ボランティア活動についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - ボランティア活動について話したり、文章を書いたりする。 - さまざまな表現を使った形容詞句について学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて、適切な形容詞句を用いて文を作る。	4	- ワークシート(記述の確認) - 課題提出(記述の点検) - 発表の様子(行動の確認)
7	Lesson 5	Helping Others	- ボランティア活動についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - ボランティア活動について話したり、文章を書いたりする。 - さまざまな表現を使った形容詞句について学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて、適切な形容詞句を用いて文を作る。	4	- ワークシート(記述の確認) - 発表の様子(行動の確認)
8	Lesson 6	Introducing Your Town	- 自分の住む町や地域についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 自分の住む町や地域について話したり、文章を書いたりする。 - 関係代名詞・関係副詞について学んで理解する。 - 関係代名詞・関係副詞を用いて文を作る。	4	- ワークシート(記述の確認) - 課題提出(記述の点検) - 発表の様子(行動の確認)

9	Lesson 7	Languages of the World	- 世界の言語についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 世界の言語について話したり、文章を書いたりする。 - 副詞のはたらきについて学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて、適切な副詞を用いて文を作る。	4	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
10	Lesson 8	Imagining the Future	- 想像についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 想像について話したり、文章を書いたりする。 - 不定詞（副詞用法）・分詞について学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて不定詞・分詞を正しく使う。	4	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
10	Lesson 9	Happiness and Stress	- 幸福・ストレスについての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 幸福・ストレスについて話したり、文章を書いたりする。 - さまざまな意味を表す副詞節について学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて適切な副詞節を用いて文を作る。	4	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
11	Lesson 10	Comparing Countries	- 各国のデータ比較についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 各国のデータ比較について話したり、文章を書いたりする。 - 原級・比較級・最上級を使う比較について学んで理解する。 - 原級・比較級・最上級を用いて文を作る。	4	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
11	Lesson 11	Cultural Diversity	- 文化の多様性についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 文化の多様性について話したり、文章を書いたりする。 - 仮定法について学んで理解する。 - 仮定法の表現を用いて文を作る。	4	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
12	Lesson 12	Japanese Customs	- 日本の文化についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 日本の文化について話したり、文章を書いたりする。 - 要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・語法について学び理解する。 - 要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・語法を用いて文を作る。	5	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
1	Lesson 13	Population Issues	- 人口問題についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 人口問題について話したり、文章を書いたりする。 - 存在や変化の表現について学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて、存在や変化、「～がかかる」という表現を正しく用いて文を作る。	5	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
2	Lesson 14	Rights and Equality	- 権利と平等についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 権利と平等について話したり、文章を書いたりする。 - 使役動詞・知覚動詞について学んで理解する。 - 伝えたい意味に応じて、使役動詞・知覚動詞を用いて文を作る。	5	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）
3	Lesson 15	Think Globally, Act Locally	- 世界の問題についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 - 世界の問題について話したり、文章を書いたりする。 - 日本語とは違う英語らしい表現について学んで理解する。 - 無生物主語や受動態を使う表現を用いて文を作る。	5	- ワークシート（記述の確認） - 課題提出（記述の点検） - 発表の様子（行動の確認）

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

・毎週末の課題、毎週明けの単語テストの範囲、長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

2年次は家庭学習の習慣をつけてください。スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、インタビューなどを通して積極的にコミュニケーションをとる技能や態度を身につけていきましょう。

(担当：長津、藤田)

教科(科目)	家庭（家庭基礎）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(文系・理系)
使用教科書	実教出版 家基707『図説 家庭基礎』				
副教材等	生活学Navi 2025 資料+成分表（実教出版）、図説家庭基礎 準拠学習ノート（実教出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

- ・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。
- ・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

3 指導の重点

- ①青年期を起点として自分の生き方を考えさせ、子どもや高齢者などの異なる世代とのかかわり共に生きる力を育成する。
- ②持続可能な社会の構築を目指して健康や環境に配慮しながら自立して生活する能力を育成する。
- ③男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	・生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	・さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 ・授業中の発言、発表や話し合いへの取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や、発表や話し合い、実験、実習への取り組みの観察 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 自分らしい生き方と家族	1節 生涯発達する人生 3節 青年期を生きる 6節 男女共同参画社会をめざして	・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し自身の将来について思考・判断することができる。 ・固定的性別役割分業や、仕事と生活の調和について理解する。	3	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
5		8節 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 10節 家族にかかわる法律	・家族と家族・家庭に関わる法律について学ぶ。 ・法律と自分のかかわりについて理解し、成年年齢の変更や理由、権利と責任などについて学ぶ。	2	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
6	第2章 子どもにかかわる	1節 子どもの誕生 8節 親になることを考えよう 10節 子どもを守る法律・制度	・子供を生み育てることの意義と人間形成の過程について考える。 ・豊かな人間関係や地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解する。	9	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み ・定期考査
	第3章 高齢者にかかわる 第4章 社会にかかわる	1節 高齢社会に生きる 2節 高齢者を知る 1節 共に生きるために 2節 社会保障制度	・高齢者とかかわることの意義、高齢社会の現状と課題について学習する。 ・福祉の考え方を理解する。 ・社会保障制度について理解する。	9	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み ・定期考査
7	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解し、課題を見つけ、調査研究を行い、発表する。	3	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み
8	第6章 衣生活をつくる	1節 人と衣服のかかわり 8節 持続可能な衣生活をつくる	・人と衣服のかかわりについて、その背景や風土などを考えながら理解する。 ・衣服の機能、衣生活と資源・環境とのかかわり、環境に配慮した衣生活について学習する。 ・被服製作実習	11	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み ・定期考査
10	第5章 食生活をつくる	1節 私たちの食生活と健康 12節 食の未来と環境への取り組み	・食べることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する ・自分の現在の食生活を振り返り、課題を見つけ、改善にむけて積極的に取り組む。	9	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査

12		1 3 節 食事摂取基準 1 6 節 調理の基本	・健康な生活を営むためにどのような栄養素がどれくらい必要なのかを学ぶ。 ・調理の流れ、調理操作を理解し、調理技術を習得する	4	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み
1	第8章 経済的に自立する	3 節 長期的な経済計画を立てる	・さまざまな契約や主体的な消費行動について学習する。	10	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
2	第9章 消費行動を考える	1 節 契約と主体的な消費行動	・消費行動における意思決定のプロセスや、生活情報の活用について学ぶ。		
3	第7章 住生活をつくる	1 節 人と住まいのかかわり 3 節 ライフステージと住まいの計画	・住まいの機能や生活様式、住まいにおけるバリアフリーやユニバーサルデザインについて学習する。 ・ライフステージやライフスタイルに応じた住生活について学習する。	4	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元毎に振り返りシートの記入、学習ノートの提出があります。
- ・実習後のレポート等、タブレットによるデータ提出があります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(ホームプロジェクトなど)

8 担当者からの一言

毎時間の積み重ねが大切です。特に実習（作品製作）は遅れることなく取り組みましょう
提出物は意欲的かつ丁寧に取り組み、必ず期限内に提出してください。
家庭科の学習をとおして自身の生活に関心を深め、課題を解決する力、実践力を養ってほしいと思います。